

～ 事例検討ケース ～

11月14日地域移行退院促進協議会

- ・45歳、男性、統合失調症。現在の病院には10年間入院している。
- ・10年前に家族への暴言、粗暴行為があり医療保護入院となる。入院から5年ほどは、気分の変化、暴言や他患とのトラブルがあり保護室の利用が必要なこともあった。
- ・現在は環境にも慣れ、1年前から開放病棟に移り、落ち着いて過ごしている。ここ3年は、暴言、粗暴行為等のトラブルもなく穏やかに過ごされている。
- ・ADLは概ね自立
- ・病棟では毎日OT活動に参加。スタッフ、他の患者とのトラブルはなく過ごすことが出来ている。

○ 入院中の病院での本人の様子

- ① 食事 : 食事は自力で食べられ、特定の場所まで下膳を行っている。
- ② 整容、清潔 : 自分から洗顔や髪を整える行動はない。外出時のみ、声掛けを行うと行われる。
- ③ 着替え : 入浴時にスタッフが声をかけながら着るものを準備する。着脱は自立。
- ④ 排泄 : トイレには自力で行かれる。支援は行っていないが、たまに尿臭、便臭がすることがある。本人はあまり気にしていない。
- ⑤ 入浴 : 入浴時は声掛けが必要。洗身洗髪はスタッフが行っている。湯船にはひとりで浸かるが、上がる時には声掛けが必要。
- ⑥ 服薬等 : 食後と寝る前の時間にスタッフから渡される。調子が悪い時は本人がステーションに行き、頓服薬をもらっている。頻度は月1回ほど。
- ⑦ 洗濯、掃除 : 週に1回家族が洗濯物を取りに来てくれる。病棟に洗濯機があるが使ったことはない。病院で掃除をすることもない。
- ⑧ 嗜好品 : 甘いコーヒーが好き。あればあるだけ飲むが、今は1日1本という約束で飲んでいる。元々喫煙をしていたが入院後はやめている。要求もない。
- ⑨ 外出時 : 面会は週1回、洗濯物を取りに来られるときに短時間行われる。家族との外出、外泊は数年行われていない。ドライブや買い物に行く程度。外泊はない。
- ⑩ その他 : 本人は病棟でも外出時も自分でお金は持っていない。元々お金はあれば使ってしまう、過去にクレジットカードでの浪費もあった。
:以前、携帯電話を使い過ぎてトラブルがあった為、今は持っていない。
今のところ本人から欲しいという希望も聞かれていない。

○入院前の様子。

- ・ 35 歳で入院するまでは自宅でずっと過ごされている。20 代後半からは、半年から 1 年ごとに入退院を繰り返していた。
- ・ 自宅での家事は基本的に母が行っていた。対象者で調理、洗濯、掃除をすることは無い。
- ・ 30 代に入ったころから食に対するこだわりが強く、かなりの量の食事、お菓子、ジュース等を飲まれ、入院時は今より 15 キロほど体重が多かった。
- ・ 現在は病院での生活が長く、食べ物への欲求は見られていない。

◎今回グループホームへの退院を目指してみると本人の要望が確認されたため、退院支援を実施する。

- ・ 医師の見立てとして、一人暮らしタイプは難しい。24 時間常駐型のグループホームの利用を目指し、資源を調整している。
- ・ 家族も高齢になり、積極的な面会や自宅への帰省、外泊が難しい状況になっている。